

[特集](#)
[理念・方針・会社概要](#)
[マネジメント・CSR経営](#)
[環境側面](#)
[社会側面](#)
[横浜ゴムCSRサイト TOP](#) > YOKOHAMA 千年の杜プロジェクト

YOKOHAMA 千年の杜

世界各地の従業員みんなで大切に育てています

「YOKOHAMA千年の杜」では、土づくりをはじめ、どんぐりの採取・育種、苗床づくり、植樹などすべての活動を従業員と地域の方々の手で行っています。ここでは、プロジェクトの概要や、私たちの思い、ご指導をいただいている宮脇昭氏からのコメント、世界中に広がる杜づくりの輪に参加した従業員の声を紹介します。

数字で見る千年の杜プロジェクト

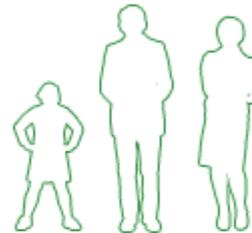


133,720

2009年12月までに国内外の拠点で植樹した本数。50万本の目標に対し、約27%の達成率です。

5,948

2009年度の植樹に参加した人数。
従業員をはじめ、その家族、地域住民の皆さまなど、
多くの方々にご参加いただきました。



国内拠点で植樹している苗木の種類。
その土地の環境にあわせて苗木を選定しているため、拠点によってその種類はさまざまですが多いところでは約60種類もの苗木を植えています。シイ、タブ、カシなど、高木と低木を組み合わせているのが千年の杜プロジェクトの特徴です。

60

12

2009年度にプロジェクトを実施した国内外の拠点数。
2017年までには国内7生産拠点、海外11生産拠点で、
植樹を実施する予定です。



横浜ゴムの思い

私たちは、原材料のゴムを中心に自然からのさまざまな恩恵を受けて、事業を行っています。また、生産活動に伴って自然環境へ負荷をかけていることも事実です。このような認識の下、横浜ゴムグループは、事業活動が与える環境への負荷を最小限化するだけでなく、工場の存在自体を、環境に良い影響を与えられるものになりたいと考え、「YOKOHAMA千年の杜」を展開しています。このプロジェクトを通して、「環境意識の啓発」、「防災、環境保全林の形成」、「温暖化抑制への貢献」、「生物多様性の維持」、「地域社会とのコミュニケーション」といった目的の達成を目指すとともに、どのようにすれば活動の意義を最大化できるのか、常に模索しながら取り組みを進めています。

千年の杜プロジェクトの概要

植物生態学者 宮脇昭氏のご指導の下、創立100周年を迎える2017年までに、国内7生産拠点、海外11生産拠点で、合計50万本の苗木を植える予定です。

2009年度は、12拠点で実施。5,948人が参加し、53,639本の苗木を植樹しました。これまで、国内外あわせて133,720本の植樹が完了しています。

横浜ゴムから世界に発信

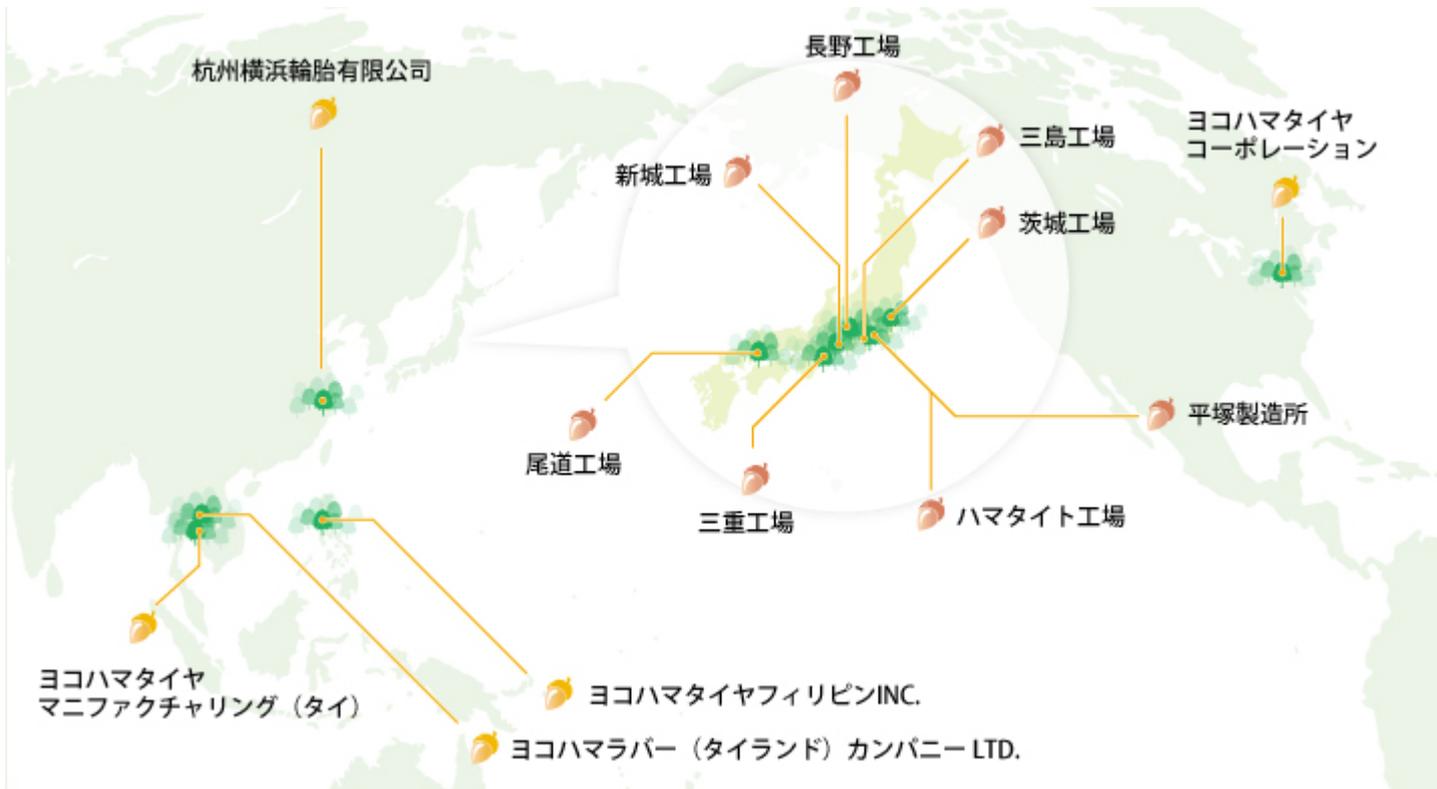
横浜ゴムは、“最高の技術は土地本来の本物のいのちの森とのみ共生する”という基本的な理念、哲学を掲げ、南雲忠信社長のもとで2007年から毎年、平塚製造所をはじめ国内6カ所の工場、さらにアメリカ、タイ、中国、フィリピンなどの工場で植樹を進めています。これは将来的には50万本植樹することを目標に、全従業員が一丸となって、地域の人たちとともにいのちと心と40億年続いてきた、かけがいのない遺伝子を守る、また地球温暖化を抑止するカーボン(C)を吸収・固定する“ふるさとの木によるふるさとの森”をつくるプロジェクトです。

国内各地はもとより、先進国アメリカ、さらにフィリピン、タイ、中国、今計画されているベトナムも含めて、すべての国の人たちがエコロジーの脚本に従って、地域的には防災・環境保全林、グローバルには生物多様性を維持し、カーボンを吸収・固定する未来志向のいのちの森づくりを嬉々として、すべての従業員、家族、そして市民が主役となって額に汗し、大地に手を接して木を植えています。

この横浜ゴムのノウハウをさらに国内各地、アジア、全世界に進めていただきたいと願っています。最高の技術は本物のいのちの森とのみ共生するという共有したフィロソフィを基本に、単なる小手先の技術でなしに、明日を植える、心に木を植える、そして最高の技術と共生する本物のいのちの森づくりは世界の範となります。さらに横浜ゴムの全従業員、家族、関連企業の皆さんがリーダーとして、地域の人たちとともに横浜ゴムのいのちの森づくりのノウハウと、その素晴らしい成果を世界に発信していただけると確信し、心から期待しています。



植物生態学者 宮脇 昭氏



長野工場

家族や友人と参加することで環境に対する関心が高まり、それが環境保全への一歩になると感じています。土地を耕したり、どんぐりから苗を育てるなどの苦労があったからこそ、盛大な植樹祭ができたと思います。

松下 好人



三島工場

7月から10月まで毎日参加した丸太の伐採や運搬などはとても大変な活動でしたが、近所の方からの麦茶の差し入れや協力的な言葉は、大きな励みになりました。実行し続けることで、周囲の人も協力してくれることを実感しました。

寺本 義行



準備も含めて、これまでに50日以上参加しました。この活動に参加してからは、環境を身近に感じるようになり、「自分にできることはないか」を考えて、ゴミの分別を徹底したり、エコバック持ち歩くようになりました。

川口 忠政



「千年の杜」の名前のとおり、小さな苗木が大木になるには長い道のりですが、将来、工場が緑に囲まれているのを想像するとワクワクします。周りの皆さまにも、杜の成長を温かく見守っていただきたいと思います。

鈴木 増美



茨城工場

地球の資源を守るために、自分たちの会社が国内外で地道に植林していることを知り、私も環境に少しでも貢献しようという意識が増しました。普段地球から受けている恩恵を「恩返し」していきたいと思います。

浅場 昇



新城工場

これまで11回の植樹祭に参加。参加前は環境活動について他人事と考えていましたが、今は自分にできることをやろうという気持ちに変わりました。皆さんも、まず1本植えてみませんか！楽しいですよ。

内藤 勝



平塚製造所

植えた木の成長を見るたびに、杜をつくる使命感と参加できたことへの誇りを感じます。これは自分たちのためではなく、子孫のための活動です。成果はすぐには表れませんが、意識をずっと保ち続けていきたいと思います。

岸本 健司



ハマタイト工場

自分たちの植えた苗木が、5年後、10年後にどのように育っていくかが本当に楽しみです。活動に参加することで、環境意識が向上していくと思うので、まだ参加したことのない職場の同僚にも勧めたいと思います。

矢島 貴



三重工場

子どもと一緒に、初めて参加しました。大勢の仲間と和気あいあいとした雰囲気の中、子どもも楽しそうに生き生きと苗木を植えており、親子で環境についていろいろと話をする良い機会になりました。

助田 春美



尾道工場

植樹に参加して徐々に土に触れ、懐かしい気持ちと、みんなで一つのことを成し遂げる達成感を味わうことができました。この「いのちの杜」づくりに参加して、地球の未来の環境を自分たちで築いていきましょう！

眞鍋 充



ヨコハマタイヤコーポレーション

日本文化に触れることのできる良い機会となり、家で子どもたちとリサイクルを始めるきっかけにもなりました。自分が携わったものが形として残る喜びがあり、地球規模の環境へも関心を持つようになりました。

Tim Fretwell



ヨコハマタイヤフィリピンINC.

フィリピンでは年々、自然林が減っており、私たち一人一人が行動を起こす必要があります。このプロジェクトは地球の美しさをよみがえらせることができる活動ですので、少しでも多くの方に参加していただきたいと思います。

Patrick Pineda



ヨコハマパパー(タイランド)カンパニー LTD.

私たちの拠点では、毎回の植樹祭に、従業員のほぼ全員が参加しています。この活動は、参加者の環境意識を高めるだけでなく、みんなでお互いに協力し合うことで良い人間関係を築くことができる活動だと思います。

Nongnuch Meerot



ヨコハマタイヤマニファクチャリング(タイ)

泥まみれになりながらも植樹活動を楽しんでいる地域の方の姿をみて、積極的に参加したいと思うようになりました。一企業の小さな取り組みですが、世界に同様の活動が広がれば環境は改善できると信じています。

Wora-anong DOUNGRATOKE



杭州横浜輪胎有限公司

このプロジェクトは、将来の子どもたちが生活しやすい、きれいな環境をつくる活動で、周りのみんなも応援してくれています。一人一人の小さな力を大きな力へと変えて、より良い環境をつくりあげていきたいと思えます。

朱建青



事務局コメント

従業員の自主性に任せているため、全員参加を実現することの難しさを痛感したことや、炎天下での重労働、マウンドを作る際に配管を壊して大騒ぎになったことなど、これまでいろいろな苦労がありました。これらを乗り越えたときは天下統一を成し遂げた徳川家康のような気持ちでした。今後も、社を拡大するにあたっての課題はたくさんありますが、従業員みんなで力を合わせて杜をつくりあげていきたいと思えます。

三重工場 岡田 久隆



2009年より事務局として千年の杜プロジェクトに携わっています。平塚製造所では、2007年の第1期植樹祭を実施して以来、これまでで27,850本の苗木を植樹。参加者は延べ3,620人に上ります。これからは、どのような形で全員参加型のイベントを継続させていくか、社内外の皆さまからお知恵を拝借し、この「いのちの杜づくり」の輪が途切れないように力を尽くしていきたいと思えます。

平塚製造所 工藤 恭久



日常の生産活動で忙しい従業員を巻き込んだプロジェクトなので、植樹の準備をどこまでお願いしていいものか、悩んだ時期がありました。そんな時、夜勤明けにもかかわらず、気持ちよく準備に参加してくれた従業員の一人から「何かあったら、また声をかけてください」と言われたときには、プロジェクトの事務局をやっていて本当に良かったと思いました。これからは、工場周辺の植樹にとどまらず、苗木を架け橋として、地域の皆さまとの良好な関係を築いていきたいと考えています。

新城工場 藤沢 英司



長野工場は、南信州の天竜川西側の高台にあり、傾斜地や竹林等が多く、植樹をするには恵まれた環境とはいえません。そのような中、従業員は仕事の傍ら苗木を育てたり、植樹場所の基礎工事を行うなど、千年の杜プロジェクトの準備に取り組んでいます。それぞれが大変な作業ですが、自分たちの手で育てた苗木を、自分たちの手で整備した土壌に植える達成感はひとしおですね。植樹した苗の5年後、10年後の生長した姿を想像すると、自分たちの杜が地球環境保全に貢献しているのだと実感することができます。

長野工場 大平 祐康



[ページの最上部へ](#)